

表1 1830/31年「世界史の哲学」講義序論草稿の構成

(頁はGW.18. [ ]は草稿にないが筆者が補ったもの)

〔I 世界史の哲学とは何か〕	
〔はじめに〕	138-140
〔A 理性が世界を統べているという考え、および神の摂理について〕	140-151
〔B 歴史における精神の実現〕	151-
α) 世界史の一般的な規定〔自由の意識における進歩〕	152-155
β) 理念を実現する手段	155-171
γ) 歴史の目的を実現する材料〔国家〕	171-181
〔C 世界史の歩み〕	181-207
〔a 発展ということ〕	181-186
歴史の始まり〕	186-196
〔b 世界史の歩み〕	196-207

ヘーゲルはこの草稿をもとに講義したが、実際の講義はこのとおりにならなかった。その内容は表2。

表2 1830/31年「世界史の哲学」講義序論 カール・ヘーゲルの筆記録の構成

- 〔I 世界史の哲学とは何か〕
- はじめに
- 1 世界史の究極目的、理性が世界を統べている、歴史の把握
- 2 この目的の詳しい規定
  - a 精神の本性——自由
  - b 精神を実現する手段
  - c 究極目的を実現する材料

(ここまでの講義草稿にはほぼ対応)

- 3 世界史の歩み (この項は草稿とかなり異なる)

(以下は、草稿にはない。前の学期の内容を改訂しつつ講義したと思われる。)

- 〔II 世界史の自然的基礎——地理学的考察〕
- 1 地理学的の三分区
  - ①極地と温帯
  - ②北半球と南半球
  - ③旧世界と新世界 (アメリカとオーストラリア)
- 2 新世界アメリカは「未来の国」として世界史に属さない
- 3 旧世界
  - (1) 風土論的分類
    - ①内陸地
    - ②谷間の平野
    - ③沿岸地域
  - (2) 旧世界の区分
    - ①アフリカ
    - ②アジア
    - ③ヨーロッパ
  - (3) 本来のアフリカ (未開の南部) は世界史に属さない
- 〔III 世界史の時代区分〕
- ①東洋
- ②ギリシャ
- ③ローマ
- ④ゲルマン

ここで序論が終了し、本論の第1部 東洋世界に移る。